

提出日：令和3年3月5日

所 属：生命・環境科学部 教職課程

氏 名：福井智紀 職位：准教授

## I ティーチング・ポートフォリオ

### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

教職課程専任教員として、中学校理科および高等学校理科・農業の教員免許取得に関する各科目を担当しているほか、教育実習の事前・事後指導や、教員採用に向けたキャリア形成支援など、教員養成課程の全般に係る教育活動に携わっています。さらに、環境科学科における科学技術論など、一部の学科の専門科目や卒業論文指導も担当し、学部・学科における専門教育にも携わっています。大学院では、環境保健学研究科における授業および研究指導を担当し、修士論文の指導も行っています。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
教育の方法と技術	教職課程（全学科）	教職必修	1	34
理科指導法Ⅰ	教職課程（全学科）	教職必修	2	21
理科指導法Ⅱ	教職課程（全学科）	教職必修	3	29
理科指導法Ⅲ	教職課程（全学科）	教職必修	3	29
教育実習指導・教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ	教職課程（全学科）	教職必修	4	31
教職実践演習（中・高）	教職課程（全学科）	教職必修	4	31
科学技術論	環境科学科	選択	2	83
環境教育学特論	環境保健科学専攻	選択	院1	5
環境教育学特別実験Ⅰ	環境保健科学専攻	必修	院1	1
環境教育学特別演習Ⅰ	環境保健科学専攻	必修	院1	1
科学者・研究者論	環境保健科学専攻	選択	院1	10
リサーチローテーション	環境科学科	必修	2	85
科学技術英語	環境科学科	選択	3	4
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	1
科学の伝達	動物応用科学科	必修	4	2
卒業論文	環境科学科	選択	3・4	6
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	2

### 2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

教職課程専任教員として、各学科での学修成果を踏まえた、本学の卒業生らしい教員を養成していきたいと考えています。また、教職に就かない学生にとっても、教職課程の学修が活き

るよう、念頭にあります。授業科目以外でも、教育実習の事前・事後や教育実習中の精神的サポートを含めた支援に、意識的に取り組んでいます。これらを通じて、特に「理科」という教科を自信をもって指導できる学生を、育てていきたいと考えています。さらに、他教科や総合的な学習の時間、特別活動や生徒指導・進路指導なども念頭に置いた、より俯瞰的な視点で学校教育に携わることのできる学生を、育てていきたいと考えています。専門科目・卒業論文・修士論文指導を担当している学科においては、学科の教育理念を念頭におきつつ、将来社会において活躍できるための基礎・基本を形成できるよう、自己の専門領域（科学教育・環境教育・科学技術社会論）を活かした教育研究に尽力していきたいと考えています。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教職課程では、4年間を一貫した視点で考えて、学生の成長を支援しています。長期間同じ顔ぶれのため、マンネリに陥らないよう、理科教育や周辺領域の最新の知見や動向に常に気を配っています。また、理論的な内容から実際の指導場面に関わる具体的な内容まで、様々な興味を惹くトピックを取り上げるよう、授業を見直しながらかつています。実際の授業では、ポイントが整理されたわかりやすい説明を心掛けています。また、実際の指導場面や日常生活の状況とも関連付けた理解が進むよう、映像・メディア等の資料を積極的に活用しています。さらに、ディスカッションや模擬授業など、学生主体の活動を取り入れるように留意して、内容や授業方法を工夫するよう心掛けています。

#### アクティブラーニングについての取組

理科指導法ⅠとⅢでは、学生の模擬授業を、全員に実施してもらっています。それに向けて、学習指導案と授業プリント・板書計画も作成するため、この支援を行っています。教育の方法と技術では、様々な教育方法と教育技術について、なるべく実践的に理解できるよう、活動の時間を取り入れるようにしています。例えば、指定した単元の板書計画を立てる活動を行っています。また、アクティブラーニングにも有効とされる思考ツールや評価方法について、授業の中で具体例を紹介しています。教育実習指導や教職実践演習では、テーマについて討論を行ったうえで全体報告を通して共有する活動など、学生主体の活動を積極的に取入れています。

#### ICTの教育への活用

学生からの提出物は、學理を活用して集めています。また、学習指導案の様式など、学生の主体的活動に役立つ資料を學理にアップロードして、確認やダウンロードできるようにしています。グループ討論のあとの全体報告などでは、学生の発言をタブレット端末から入力してスクリーン表示（オンライン授業では画面共有）するなど、出された意見をリアルタイムに共有・確認できる効果的な方法を探っているところです。また、教育の方法と技術など、教職課程の授業科目では、ICTの活用方法や生徒への指導方法についても授業内容として取扱うとともに、情報モラルについても時間をとって講義しています。卒論指導では、特段の機密事項や個人情報の懸念がない場

合には Slack を活用し、学生からワードやパワーポイントのファイルを随時提出させ、研究室内で共有するとともに、それに直接コメントする形でフィードバックを行っています。研究室でも、基本的な ICT 環境を整備するようにしています。以上のほか、特に今年度は、オンライン授業への対応のため、従来と遜色のない教育活動を ICT 機器を活用しながら実施するために、学生の反応を確かめながら様々な試行錯誤を行いました。

#### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

##### ① 教育（授業、実習）の創意工夫（A）

オンライン授業に対応するため、例年以上に、様々な創意工夫を行いました。

##### ② 学生の理解度の把握（B）

学生の理解度をオンライン授業のもとでも把握できるよう、學理を活用して毎回課題やテストを実施しました。しかし、過度の分量を課さないよう簡略なものにしたことや、学生の反応が見えづらかったため、理解度の把握という点では一部不十分な点がありました。

##### ③ 学生の自学自習を促すための工夫（A）

上記の課題なども含め、学生の自習的な活動を積極的に取り入れるようにしました。

##### ④ 学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

オンライン授業終了時に最後まで質問等に答えるなど、コミュニケーションが疎かにならないよう留意しましたが、対面ではないため質問しづらい学生がいた可能性があります。

##### ⑤ 双方向授業への工夫（A）

今年度に大学で推奨された内容・方法に従いつつ、学生の過度な負担にならないよう留意して、學理を活用したオンライン授業を実施しました。

##### ※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

オンラインでも遜色のない授業実践・教授手法となるよう、従来の授業内容を踏襲しつつ、オンライン授業に合わせた調整を行いました。また、授業方針などが伝わるように、ガイダンスを丁寧に実施し、課題・テストも内容と提出期限を明示しました。

##### ⑥ 国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。） ※該当しません。

#### 5. 学生授業評価

##### ① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

例年、私語対応への要望が多いのですが、今年度はオンライン授業のため、授業に集中できるよう途中で作業時間を挟むなど、1コマの時間配分を工夫しました。また、開始時刻と終了時刻にも例年以上に注意し、特に開始時には早めにタイトルおよびその回のテーマを表示して、学生が安心できるように配慮しました。

##### ② ①の結果はどうでしたか。

自由記述を見ると、オンライン授業を原因する苦情は多くはありませんでした。ただ、指摘

された事項が皆無ではなく、まだ完全とは言えない状況です。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

次年度も引き続き、開始時刻・終了時刻に一層注意します。また、学生が主体的に授業に取り組めるように、オンライン授業の最新動向にも目を配りつつ、内容・方法の改善にさらに努めたいと思います。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

特に教職課程の科目では、学生が主体的に取組む機会を重視しています。例えば、理科指導法Ⅰ（2年生）と理科指導法Ⅲ（3年生）では、全員に模擬授業を課しています。各自の持ち時間は短いですが、他の学生の前で授業を披露する機会となっています。今年度はオンラインでの模擬授業となり、当初は不安の声もありましたが、実施結果やレポートを見ると一定の教育技術や自信がついたと思われます。なお、模擬授業では、他学生からのコメントを學理のテスト機能で回収して匿名化のうえ公表し、学生が自己の課題を確認するために役立てました。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

最終レポートでは、自分自身の教育実習までの課題や、課題克服の具体的アクション、目標とする理科授業像などを記載してもらっています。内容を見ると、それぞれの学生が、授業を通して自分自身の現状を把握し、教職課程における今後の学修への方針を明確にできたと思われる。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

担当授業等のやむを得ない所がない限り、開催されるすべての FD 研究会に参加し、授業や教育活動を見直す機会としています。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

短期的な目標としては、教職に関わる確かな知識と技術を育成することで、教員採用試験の受験率・合格率を高めていきたいと思えます。長期的には、神奈川県などで教員として実際に活躍できる人材の育成に努めていくとともに、教職に就かない学生においても、教職課程の学修が活かしていると将来実感できるような教育活動を構想していきたいと考えています。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

- ・ 學理における授業評価、課題・テストへの回答結果、最終レポート結果、アンケート等
- ・ シラバス（授業内容等）
- ・ キャンパスプラン（履修状況・成績評価）
- ・ 講義資料（パワーポイント・レジュメ等）
- ・ オンライン授業の録画映像（授業点検資料）
- ・ 科学教育・環境教育分野における研究論文・報告等（教材研究）
- ・ 科学研究費補助金交付決定通知（科学教育・環境教育分野のプログラム開発）
- ・ 卒論指導学生が提出した卒業論文要旨・卒業論文（卒論指導成果）